②フェイガー



第2回未来のコメづくりオンラインシンポジウム 農業の生み出す環境価値

2024年のハイライト

2024年

- カーボンクレジット取引の枠組みが大きく進捗 (JCM、パリ協定第六条、コアカーボン原則、SBTi)
- 農業由来の排出削減活動は引き続き重点取り組み対象 (FAO Roadmap、EU Carbon Removal and Carbon Farming Directive)

SBTi Scope3 Discussion Paper:環境証書(カーボンクレジット)の利用可能性

Scope3目標実行を強化するための手段としてカーボンクレジット・環境証書の利用が検討されている

Scope3目標を実行するための選択肢

シナリオ1 自社バリューチェーンからの 認証原料の活用 Use of commodity certificates from value chain activities シナリオ2 低トレーサビリティレベルの 認証原料の活用 Use of commodity certificates with lower or no traceability シナリオ3 カーボンクレジット活用 目標実行手段の多様化 自社バリューチェーン (環境証書の活用) カーボンクレジットによる相殺 Use of carbon credits within value chain Potential Use of Various for reduction claim Certificates (EAC) for Target Implementation シナリオ4 カーボンクレジット活用 P34-43 残余排出量中和への カーボンクレジットの活用 Use of carbon credits to neutralize residual emissions シナリオ5 🗖 カーボンクレジット活用 カーボンクレジットによる バリューチェーンを超えた貢献 Use of carbon credits for beyond value

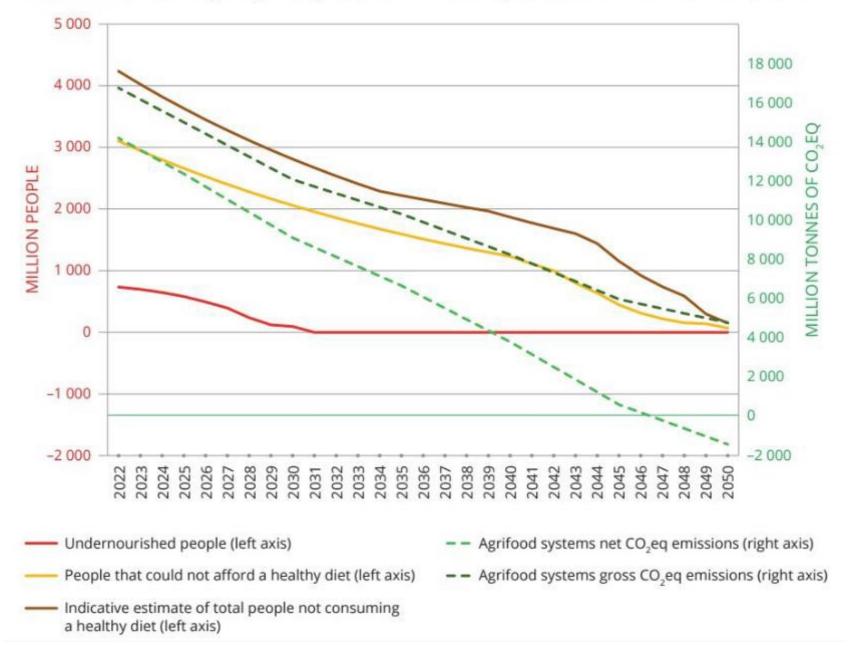
- 気候変動に配慮した生産方法を行っている商品を購入するべく、認証原料を選択する
- 認証原料を用いて環境主張を行う場合は、強固なトレーサビリティ(Identity Preserved又はSegregationを示唆)が必要である
- 強固なトレーサビリティを実現することができない場合は、より低いレベルのトレーサビリティ(book and claimを示唆)の認証原料を認める
- 但し、上記の場合、サプライヤの排出量削減・トレーサビリティ強化が遅延・弱体化する可能性がある。対策として、低トレーサビリティ認証原料の利用量に制限が必要である
- 原則としてSBTiはカーボンクレジット利用を排出削減として認めていない
- 但し、カーボンクレジットの行う排出削減が企業の<u>バリューチェーンと関連付けられる(traceable to the company's value chain)</u>とき、カーボンクレジット利用を排出削減として認めてもよい
- SBTiはネットゼロ達成目標年に、残余排出量を大気から永久に除去・貯蔵することで中和することを求めている。残余排出量の性質見合った除去手段が選択されるべき。現在中和手段の適格手段について協議中(中和手段の適用可能なタイミングは、まだSBTi CNZSには明示されていない。文書図中では2030年以降とされているが、Illustrativeであると強調されている)
- カーボンクレジット利用をScope3排出削減として認めない
- 但し、削減できなかった排出量(unabated emissions)に対して、カーボンクレジットの利用を認めることで、企業の気候変動への貢献量を拡大することができる
- バリューチェーン内目標値・バリューチェーン外目標値を切り分ける、品質の高い(特に追加性に言及)カーボンクレジットのみを適格にするなどの制限が必要

出所: <u>SBTi scope 3 discussion paper</u> (2024)

FAO (Food and Agriculture Organization) ロードマップ

食糧・農業関連排出量は全排出量の1/3を占める。1.5℃目標を実現するには、2030年までに▲25%削減必要メタンは2045年までに半減させる必要がある





Source: FAO"Achieving SDG 2 without breaching the 1.5° C threshold"

Food Security and Nutrition Goals

- 2030: Chronic hunger eliminated
- 2050: Everyone consumes healthy diets

1.5 degC Agenda

- 2030: Gross GHG emissions of agrifood systems cut by 25 %
- 2035: Agrifood systems are CO2 neutral
- 2040: N2O halved
- 2045 : CH4 halved
- 2050: Agrifood systems are a net carbon-sink (-1.5 Gt CO2eq per year).

カーボンクレジット価格の高騰

ルールの明確化に伴い一部カーボンクレジットの価格は大幅に上昇した

CORSIA適格クレジットカテゴリ毎の価格推移



出所: CORSIA: Forecasting Future Demand & Supply Scenarios (2024)

2024年のハイライトと2025年の見通し

2024年

- カーボンクレジット取引の枠組みが大きく進捗 (JCM、パリ協定第六条、コアカーボン原則、SBTi)
- 農業由来の排出削減活動は引き続き重点取り組み対象 (FAO Roadmap、EU Carbon Removal and Carbon Farming Directive)
- 農業大国ブラジルでのCOP30開催

2025年

主要な枠組みでの重要Update (GHG Protocol Land Sector and Removal Guidance、パリ協定第六条、EU CRCF他)

FAEGER